

# メガイアワビの種苗生産

(栽培漁業種苗生産事業)

曾田一志・奥田 進

## 1. 研究目的

中間育成用種苗、放流用種苗および養殖用種苗として殻長8～15mmサイズ30万個を生産し、配布する。

## 2. 研究方法

### (1) 平成19年度採卵分（中間育成～出荷）

中間育成は屋外の10m水槽9基を用い、塩ビ製の黒色シェルターを1槽当たり18～22枚敷いた。飼育海水(生海水)の換水率は毎時1回転とした。朝～夕は95%遮光幕で遮光した。餌料はアワビ用配合餌料を週3回、生アラメを週1回程度、飽食量を給餌した。底掃除は5～6日に1～3回全排水で行った。出荷の約2～3日前に剥離し、選別、計数(重量換算法)を行い出荷した。

### (2) 平成20年度採卵分（採卵～珪藻飼育）

親貝は、平成19年導入親貝に加え7～9月にJFしまね浦郷支所、海士町漁協で約120個を購入し、親貝養成して採卵に用いた。採卵は11月上旬～下旬にかけて、1週間毎に3回行った。採卵誘発は前日から夜間止水法を行い、採卵日の朝からUV照射海水と海水加温(自然水温+5℃程度)を組み合わせで行った。卵は洗卵した後、1tの孵化槽2～3基に収容し、幼生を4～5日間飼育した後、採苗に用いた。採苗は屋内の6m水槽7基と3m水槽4基、屋外10m水槽1～2基を用いて、上げ採苗を行い、幼生を波板に付着させた。約1週間の屋内飼育の後、屋外の珪藻飼育では、10m水槽へ移動した。飼育水は、生海水を使用した。搬出後は、珪藻を維持するため採苗枠の上下反転を週2回行い、採苗後、約1ヶ月目から週1回程度の全排水掃除、注水口側と排水口側のホルダーの入替えをして、珪藻の管理を

行った。また、施肥として、イオンカルチャー(不動テトラ社製)を規定量添加した。

## 3. 研究結果

### (1) 平成19年度採卵分

平成19年2～5月は摂餌状況が良好だったが、6～7月にかけて摂餌不良が生じた。水温25度を超えた頃から回復し、その後は順調に成長した。8mmサイズは、隠岐道後水産種苗センターへ平成20年4月に12万個、15mmサイズは益田種苗センターへ平成20年8月に13万個の出荷を行った。

### (2) 平成20年度採卵分

採卵には延べ62個の親貝を用い、総産卵数は3,279万粒で、受精率95～98%、採苗には2,291万個の幼生を使用し、約1ヶ月後の付着数は約312万個、付着率は13.6%であった。また、1回目の剥離選別時(3月中旬)で240万個を計数した。本年は珪藻飼育時の採苗器の上下反転の頻度を例年の倍以上に上げたこと、イオンカルチャーを使用したことにより珪藻の状態が良かったため、付着後1ヶ月後から1回目の剥離選別時までの歩留まりが高かった(77%)。以後順調に生育している。

## 4. 研究成果

中間育成後、県内全域の沿岸に放流が行われる予定である。